

請負工事施工管理基準改正資料

令和 7 年 10 月

名古屋市緑政土木局

目 次

請負工事施工管理基準

1	目 的	1
2	適 用	1
3	施工管理の構成	1
4	施工管理の実施	1
5	施工管理の方法	1
6	規格値	2
7	その他	2

出来形管理基準及び規格値

第3編	工事共通編	4
第1章	土工	4
第2章	無筋・鉄筋コンクリート	11
第3章	一般施工	11
第4章	共通施工	76
第4編	河川編	100
第1章	築堤・護岸	100
第2章	浚渫（川）	101
第3章	樋門・樋管	103
第4章	水門	103
第5章	堰	104
第6章	排水機場	105
第7章	床止め・床固め	106
第8章	河川維持	106
第9章	河川修繕	—
第5編	砂防編	107
第1章	砂防堰堤	107
第2章	流路	110
第3章	斜面对策	110
第6編	道路編	112
第1章	道路改良	112
第2章	舗装	115
第3章	道路付属物	116
第4章	橋梁下部	120
第5章	橋梁上部	128
第6章	コンクリート橋上部	128
第11章	共同溝	128
第12章	電線共同溝	130

第13章	道路維持	132
第14章	雪寒	—
第15章	道路修繕	134
第7編	公園緑地編	135
第1章	基盤整備工	135
第2章	植栽	137
第3章	施設整備	138
第4章	グラウンド・コート整備工	—
第8編	下水道編	146
第1章	管路	146
第2章	処理場・ポンプ場	157

品質管理基準及び規格値

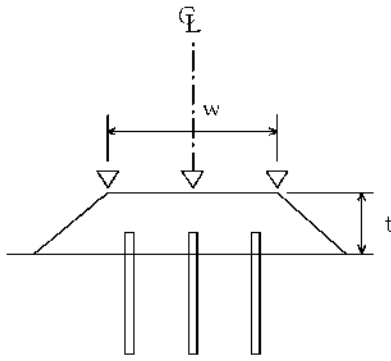
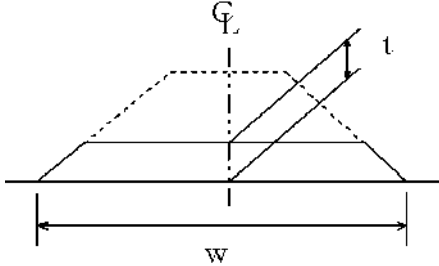
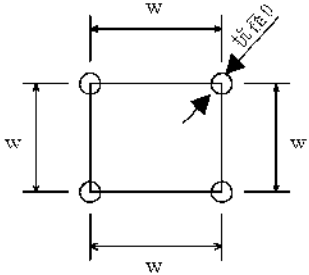
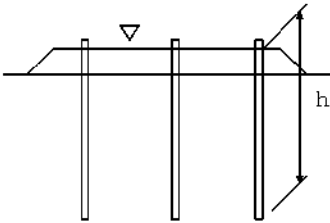
別に定める請負工事品質管理基準（名古屋市緑政土木局）による

様式

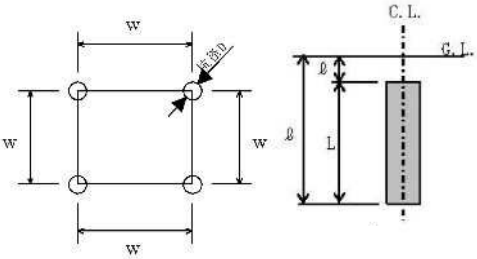
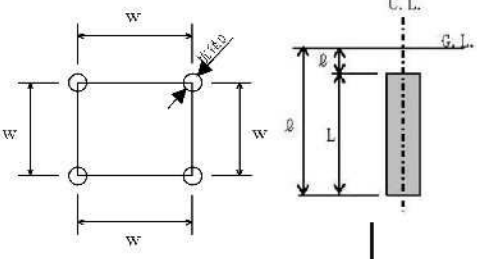
(様式 1)	出来形成果総括表	1
(様式 2)	出来形管理図	2
(様式 2－2)	出来形管理表	3
(様式 2－3)	出来形管理表	4
(様式 2－4)	出来形管理表	5
(様式 2－5)	出来形管理図	6
(様式 2－6)	出来形管理図	7

別紙1

整備書類（データ）一覧表（参考）	1
------------------	---

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値（mm）	測定基準	測定箇所	摘要
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所測定する。 厚さは、中心線及び端部で掘り起こして測定する。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
						厚さ t	－50			
						幅 w	－100			
						延長 L	－200			
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ t	－50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所測定する。。 厚さは、中心線及び両端部で掘り起こして測定する。		
						幅 w	－100			
						延長 L	－200			
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	7		バーチカルドレーン工 （サンドドレーン工） （ペーパードレーン工） （袋詰式サンドドレーン工）	位置・間隔 w	±100	100本に1ヶ所測定する。 100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4本測定測定する。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 ペーパードレーン工においては、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
						杭径 D	設計値以上			
			8		締固め改良工 （サンドコンパクションパイル工）	打込長さ h	設計値以上	全本数測定する。		※余長は、適用除外

						サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	—	全本数測定する。 計器管理にかえることができる。 サンドコンパクションパイル工においては、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		
--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	---	--	--	--

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値（mm）	測定基準	測定箇所	摘要
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	9	1	固結工 （粉体噴射攪拌工） （高圧噴射攪拌工） （スラリー攪拌工） （生石灰パイル工）	基準高▽	-50	100 本に 1 ヶ所測定する。 100 本以下は 2 ヶ所測定する。 1 ヶ所に 4 本測定する。		
						位置・間隔w	D／4 以内			
						杭径 D	設計値以上			
						深度 L	設計値以上	全本数測定する。 $L = \ell_1 - \ell_2$ ℓ_1 は改良体先端深度 ℓ_2 は改良端天端深度		
3 工事共通編	3 一般施工	9 地盤改良工	9	2	固結工 （スラリー攪拌工） 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）第8編固結工（スラリー攪拌工）・バーチカルドレーン工編」による管理の場合	基準高▽	0 以上	杭芯位置管理表により基準高を確認		
						位置	D／8 以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表により設計杭芯位置と施工した杭芯位置との距離を確認（掘起しによる実測確認は不要）		
						杭径 D	設計値以上	工事毎に 1 回 施工前の攪拌翼の寸法実測により確認（掘起しによる実測確認は不要）		
						改良長 L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結果表により確認（残尺計測による確認は不要）		

出来形管理基準及び規格値